地球上すべての人びとに平和に生きる権利を

9条地球憲章の会　第52回公開研究会

金澤 伶さんの講演

誰かを犠牲にする「平和」を超えて

ー「加害者」として構造を問い、「新しい戦争」を止めるために ー



金澤 伶（かなざわ　れい）

★プロフィール

東京大学教養学部国際関係論専攻。

移住者と連帯する全国ネットワーク（移住連）スタッフ。

東京大学の学費値上げ反対運動をはじめ、学生の権利と高等教育のあり方をめぐる活動に取り組む。

また、在留資格のない子どもたちの教育・進学支援や権利擁護に携わり、移民・難民をめぐる差別や排除の問題にも取り組んできた。

教育、民主主義、人権の問題を、歴史的な不正義や現在の社会構造とのつながりから捉え、誰もが尊厳をもって生きられる社会の実現を目指して活動している。

第22回相磯まつ江記念「法と民主主義賞」受賞。

★著書

編著『学費値上げに反対します：学生たちの生活と主権』（地平社）

2026年

11月23日(月)　午後6時30分～8時30分

オンライン ZOOM による開催　参加費；1000円

参加申込みは、次のURLか、右のQRコードよりお願いします。

https://forms.gle/QthESrePwMVuG6bP7

講演の趣旨

戦争を経験した世代が少なくなり、戦争の記憶を次の世代へどう継承するかが問われています。戦争の悲惨さを伝え、憲法9条を守り、軍拡に反対することは、いまも重要です。しかし、「戦争反対」という言葉が、戦争を知らない多くの人にとって自分自身の問題として受け止められにくくなっているとしたら、平和運動のあり方そのものを問い直す必要があるのではないでしょうか。

日本では、空襲や原爆など、自国民が受けた被害の記憶が語り継がれる一方、日本がアジアの人々に与えた加害の歴史や、植民地支配の責任は十分に引き受けられてきたとはいえません。なぜ日本は侵略戦争を始め、社会はそれを支持し、止められなかったのか。誰が「敵」とされ、誰の犠牲が当然のものとされてきたのか。戦争をなくすためには、戦争を生み出す社会の構造を見つめる必要があります。

私は、東京大学の学費値上げ反対運動をはじめとする学生・社会運動や、在留資格のない子どもたちの教育と権利を守る活動に携わってきました。こうした経験を通じて考えてきたのは、運動が何に抵抗し、どのような社会を実現しようとしているのかという問いです。貧困や格差、差別、排外主義、植民地主義、そして人々の生活よりも軍事や国家の論理が優先される社会。これらを別々の問題として捉えるのではなく、平和を脅かす構造として考えることが必要ではないでしょうか。

本講演では、若い世代の視点から、現在の平和運動や学生運動が直面する課題を考えます。多くの戦争を知らない世代が歴史の外側に立つのではなく、過去の加害と現在の社会とのつながりを見つめ、平和を自分たちの問題として捉えるには何が必要なのか。抵抗するだけでなく、誰もが尊厳をもって生きられる未来をどう描き、世代を超えて共有していけるのか。これまで平和運動を担ってきた方々とともに考えたいと思います。

連絡先　9条地球憲章の会事務局　9.globalpeace@gmail.com
HP　https://www.9peacecharter.org/　FB　https://www.facebook.com/9peacecharter/